

あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '90 9月号

あなたの写真を展示に・・・・・・

-----第3回平塚市博物館公募写真展 写真募集-----

変わりゆく地域の姿を未来に!!!!

地域の自然や文化についての写真を募集します。

入賞・入選写真は特別展で展示するだけでなく、博物館資料として保存し、ひろく活用します。

募集要項

●課題 「相模川流域の自然と文化」

相模川流域各地での生活の様子や自然の姿の写真を募ります。

(例えば、農業や漁業などの仕事の様子、祭り、年中行事や野鳥の生態、四季の草花など博物館資料として活用できる写真)

●募集期間 平成2年7月1日から9月30日(必着)

●応募作品 カラープリント、モノクロ写真、組写真のいずれかに題名をつけて応募してください。

<サイズ>キャビネ相当サイズに限る

(入賞・入選作品は博物館で引伸しをして展示します)

<撮影年月>撮影の年月日が明らかな写真ならば撮影期日は問いません。

<応募点数>1人何点でもご応募ください。※応募作品の返却はいたしません

●応募方法 応募票の所定事項を記入し、作品に添えて博物館に郵送



（第二回公募写真展優秀作品から）

「根みつば洗い」

湯山 師英

「相模湖」

川崎 テル子

神奈川県西部地震を探る

先月5日に関東南部でかなりの揺れを感じた地震は、記憶に新しいことでしょう。この地震はマグニチュード5.1、震源地が箱根湯本で、小田原周辺を震源とする神奈川県西部地震の前触れではないかといわれました。

ここでは、この神奈川県西部地震にスポットをあて、最近の研究成果でどんなことが言われているのか、石橋克彦氏（建設省建築研究所）の研究を元に紹介しましょう。

まず、古文書などの歴史地震の研究から過去の地震をみてみると、神奈川県西部（小田原付近）の直下に震源を持つM7級の地震が、江戸時代以降に5回知られています（下表）。石橋氏は、この5回の地震は平均73年周期で繰り返していると計算しました。

ところで、南関東地域はフィリピン海プレートとよばれる、南方から年数cmの速度で北北東へ運動しているプレートが、相模トラフ（舟状海盆）で本州下に沈み込んでいます。しかし、西側の小田原から伊豆半島にかけては、軽い地殻のために沈み込めずに山北付近で丹沢山地に衝突しているものと考えられています。石橋氏は、この両者の境として伊東沖から北へ延びるプレート内の裂け目を推定し、西相模湾断裂と名づけました。そしてこの断裂の運動（西側隆起の左横ずれ逆断層運動）が上記の小田原地震の原因と考えました。

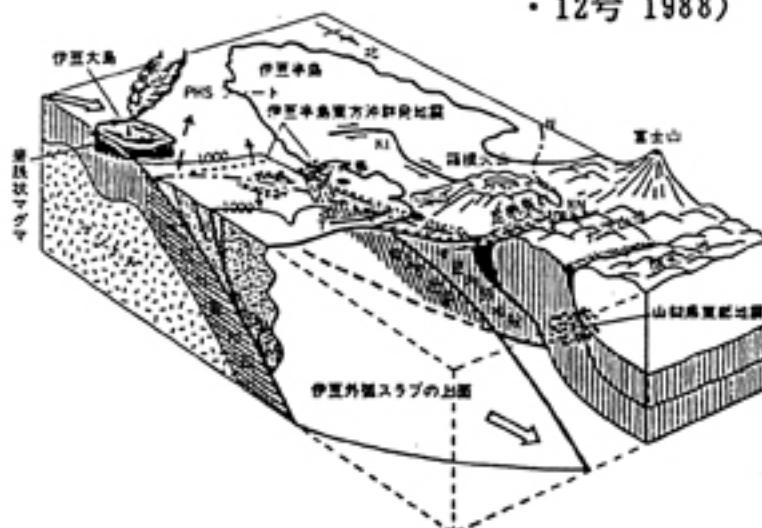
1703年の元禄地震と1923年の大正関東地震は基本的にはM8級の相模トラフ北半沿いの

プレート境界の巨大地震ですが、このとき西相模湾断裂も活動したと、地震活動や地殻変動等から考えています。

1974年から伊豆半島沖の地震が次第に北上していることもこうしたプレート運動との関係で説明されています。

この石橋氏の西相模湾断裂の震源断層モデルには批判的な見解もあるものの、氏は約70年周期で小田原地震は繰り返しており、今世紀末にはM7級の神奈川県西部地震が発生する可能性はかなり高いと述べています。小田原・箱根等では震度6の激しい地震動が予想されており、今後の研究の動向を見守っていきたいと思います。（出典：科学58巻9号

・12号 1988）



石橋氏による神奈川県西部地震の発生モデル

白矢印はプレートの運動方向。

KM：国府津-松田断層 KN：神岡断層

1633. 3. 1 (寛永10. 1. 21) M. 7.0±1/4 : 寛永小田原地震

小田原震度7。城破壊、家屋倒壊多数。死者150ないし1000人とも言われる。

1703. 12. 31 (元禄16. 11. 23) M. 7.9-8.2 : 元禄地震

南関東全域で激しい地震動。江戸で大被害。小田原で震度7、城下町全壊。小田原藩全体の死者は2300人。宇佐美では津波で380人死亡。房総～三浦半島～大磯海岸が隆起。

1782. 8. 23 (天明 2. 7. 15) M. 7.0 : 天明小田原地震

小田原で城の天守傾き、人家800損壊。震度6。

1853. 3. 11 (嘉永 6. 2. 2) M. 6.7±0.1 : 嘉永小田原地震

震度6は小田原城の北東側と足柄平野西部北部に集中。20-100人の死者あり。

1923. 9. 1 (大正 12) M. 7.9 : 大正関東地震

南関東全域で大震災、大津波。小田原は最激震で震度7。房総～相模湾岸が隆起。

《夏休み中の行事紹介2つ》

その1 サマーセミナー

恒例のサマーセミナーが今年も「土屋老人憩いの家」で8月7、8、9日の2泊3日で実施されました。

1日目のオリエンテーリングや2日目の「土屋をさぐる」というテーマでの各種の分野別の観察会に参加し、32名の子ども達は、とてもはりきって取り組みました。

※その時の子ども達の活動の様子は11月の寄贈品コーナーとして特集を組んでご紹介する予定です。



その2 自由研究相談会

7月25日、8月22日の2回にわたって行われました。相談件数は、合わせて40件で、相談日以外の数も含めると48件となりました。そのうち三分の二は中学生でした。社会科や理科の宿題として取り組む生徒が多く、研究のテーマがなかなか決まらず、悩む生徒達の姿も見受けられたようです。



■星を見る会「秋の星と土星を見よう」

秋の星座を観察したり、南西の空に見える星を望遠鏡で観察したりします。土星の輪も見れますよ。

場所：博物館科学教室 博物館屋上

参加：自由

場所：博物館科学教室

日時 10月26日



■プラネタリウム投影の案内

投影の話題「星の一生パートⅠ」

星が生まれ死んでいくというとまるで星は生き物のようですが、わたしたちが考えるような生き物ではありません。

でも、星が輝きだす時と星が最期を迎える時の劇的な瞬間を知ると人事のように思えないのです。今回は、最新の天文学が解き明かす星の誕生の様子を見ながら星がどこから生まれ光出すのかお話ししましょう。

投影期間：9月8日～11月4日

投影時刻：毎週土曜日14時

毎週日曜日11時、14時

所要時間：1回45分

観覧券：1人 100円 当日9時より発売



行事案内

9月		
8	土	漂着物を拾う会（花水川河口） 古文書講読会 土曜観察会 ナチュラリスト講座 「大磯丘陵のセミ」
9	日	身近な生き物調査
11	火	身近な生き物調査
16	日	相模川を歩く会
22	土	漂着物を拾う会（花水川河口） 古文書講読会 石仏を調べる会 土曜観察会（新聞づくり）
29	土	体験学習 「星座早見盤を作ろう」
9/8~11/4 プラネタリウム 「星の一生パート1」		
9/16まで 寄贈品コーナー：写真展 (昨年度の公募写真展入選作品の展示)		
10月		
4	木	身近な生き物調査
6	土	漂着物を拾う会 ナチュラリスト講座 「身近なキノコ」 土曜観察会
7	日	身近な生き物調査
13	土	古文書講読会 石仏を調べる会
20	土	漂着物を拾う会 天体観察会 「オリオン座流星群」 平塚の空襲と戦災を記録する会
21	日	相模川を歩く会
26	金	星を見る会「秋の星と土星」
27	土	土曜観察会 古文書講読会
28	日	体験学習「紙すき」

*行事内容について分からぬ点がありましたら、遠慮なくお問い合わせ下さい。

■体験学習「星座早見盤を作ろう」

自分の手作りの星座早見盤を使い、実際の空とプラネタリウムで星や星座の学習をします。
日時：9月29日（土）15時～19時
申し込み：往復はがきで9月20日まで
人数：20人
場所：博物館科学教室
持ち物：はさみ、筆記用具
軽食（おなかのすく人）
参加費：材料代200円 当日持参



■体験学習「紙すき」

伝統手すき和紙の技術を学びましょう。ふるってご応募下さい。

日時：10月28日（日）9時～15時まで
場所：博物館科学教室
申し込み：往復はがきで10月20日まで
(定員20名まで、多数の場合は抽選)
費用：材料費800円（当日ご持参下さい。）

